

猪高の森自然観察だより 12月号

開催日時:2022年12月16日(金) 9:30~12:00

天候:晴 気温:最低1.4℃、最高9.4℃(名古屋に於いて)

テーマ:今月は定例観察会がありませんので、テーマはありません。

参加者構成:自然観察グループ員5名(内NACS-J指導員2名)

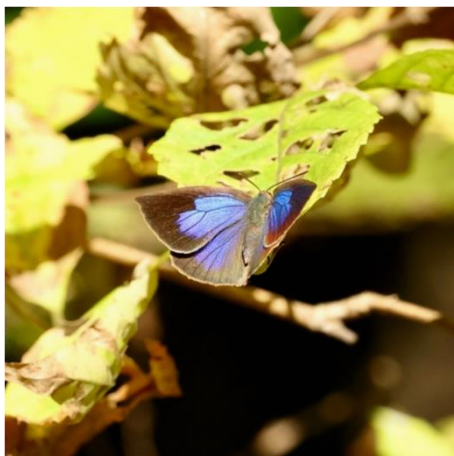
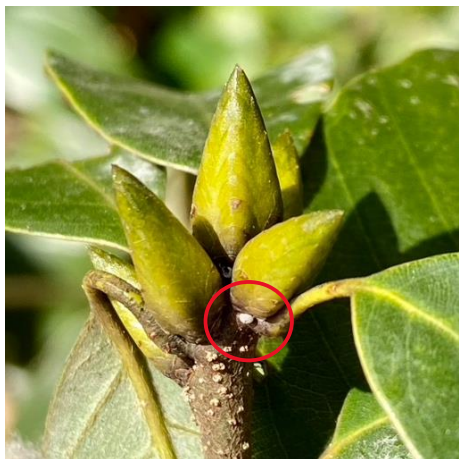
コース予定:森の集会所 → シダレザクラの里 → こもれば池 → ハンノキ湿地 → 井堀の棚田 → 井堀の大クス → 森の集会所

やっと気温が下がって来た印象があります。生き物たちも冬支度を始めていますが、昨年と比べて、まず、渡り鳥の数が少ない。この猪高の森では、多くの種類の水辺の鳥たちはいませんが、近くの牧野ヶ池緑地、小幡緑地では、種数は一応揃っているのですが、個体数が少ない印象があります。

山野の鳥たちでも、シロハラやツグミ、アオジなどの確認が減っているように感じます。先日までの高い気温の影響でしょうか？

また、この1週間後の12月24日(土)には雪が降り、一気に真冬の寒さがやってきました。気温の乱高下でした。

〇ムラサキシジミの卵を見つけました



左は食樹のアラカシに産み付けられた卵。右は成虫の姿です。

元々は、成虫で越冬する種なので、この卵が孵るかどうかはわかりません。

1年に3~4回羽化するとのことですが、成虫は花にもあまり来ず、何を食べているかよくわかっていない

ようです。猪高の森では、比較的良く見るチョウですが、まだまだ謎が多いですね。

アラカシは常緑広葉樹。左は冬芽を真上から見た画像です。芽を覆う鱗片が5列に並んでいるために、膨らんだ五角形に見えませんか？ 五角 → 合格 とのこと、受験生に人気があるとか。

以前に紹介したヤマコウバシもまた冬に葉が「落ちない」ことで、人気がありました。



○クビキリギスの秘密



森の集会所のトイレにいたクビキリギスの茶色タイプです。頭の尖ったキリギリスの代表的なひとつ。

ウィキペディアによると、「出典が不明瞭なので、検証が不可能です」との記載があります)

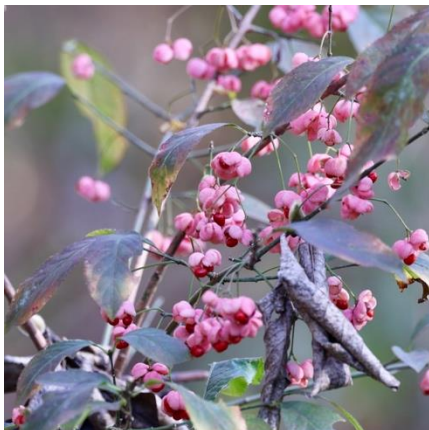
緑色と茶色タイプの違いは、終齢幼虫のいた環境の湿度

の違いとのことです。ある一定の湿度以上ならば緑色に、それ以下なら最後の脱皮で、茶色に代わるとのことです。草の多い環境ならば、周りの湿度も高くなり緑色に、乾燥していたら茶色になるそうです。

クビキリギスは成虫で越冬し翌春卵を産みますが、個体の中にはそのまま生き続け、もうひと冬越すものもいるとのこと。また、メスのみで卵を産む能力(単為生殖)もあるそうです。

体色について言えば、赤っぽい個体もいますし、これもまた謎の多い虫です。

○マユミとユズ



シダレザクラの里の木道横でマユミが美しい実を付けていました。果実や種子、紅葉が美しく庭木にもよく使われる樹です。雄株と雌株があります。

名前の由来は、材の性質が強く、更によくしなるため、古来より弓の材料として利用されていたため。



ユズも実を成らせていました。古くは「柚」「由」とも表記され、最も短い名前の植物のひとつです。

中国原産で、日本には平安時代初期に伝わったとされています。寒さにも強く、病虫害にも強いいため、各地に広まり栽培されています。実の小さい「ハナユ」もユズと呼ばれることがありますが、これとは別の種類になります。

冬至に入る「ゆず湯」は現代科学において、血行促進効果があり、風邪の予防だけでなく、冷え性、神経痛、腰痛などを和ら

げる効果があるとされています。

○テントウムシも越冬の準備です



先月号で紹介したヨコヅナサシガメに続き、ナミテントウの越冬を見つけました。

ただ、昨年と同じ集会所の窓枠の隅っこではなく、吹き付けである塗料(?)のちょっとした窪みでした。

「君、こんなところで、いいの？大丈夫？それも、仲間も居ずひとりだけで・・・。」と声を掛けましたが、返答はなし。(当たり前です。)今後を見守りたいと思います。

○冬の花もまだあります



ツバキやサザンカも冬の花として有名ですが、チャの花をご存じですか？

皆さんが良く飲む「お茶っ葉」の花です。

お茶の樹はツバキやサザンカと同じ仲間、この時期に白い小さな花を咲かせます。

冬は、静かな季節ではありますが、決して寂しい季節ではありません。

冬にしか登場しない生き物たち、春に向けて準備をする生き物たち色々です。



同じサイトで昨年の12月の猪高の森を紹介しています。合わせて参考にしてください。なるべく毎回異なる内容にしています。

<http://sizen.ciao.jp/observation/20211217itaka.pdf>

次回観察会は、1月22日(日) 森の集会所集合

9:30~です。

上の画像は棚田で新しく見つけた「モズのはやにえ」です。

先月号で紹介した「はやにえ」はなくなっていました。

春になる前に食べてしまうことも、あるのかもしれませんが。